

編集後記

◇今回の特集号を刊行するにあたり、地質調査所の職員以外の方々にも執筆をお願いしましたところ、多くの方が快くお引き受けくださり、10周年を記念するにふさわしい内容にすることができました。御協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

◇この特集号の編集を担当することになり、皆様の原稿に目を通して見ると、設計段階から地質標本館の仕事に携わってきた1人として、展示方法の検討や標本の収集やらに天手古舞していた一昔前のことが、今では懐かしく思い出されます。

◇新しい試みとして、「ユニークな地質系博物館」を企画し、その第1弾として本号に2件を掲載しました。今後は“地質標本館だより”の中で逐次紹介していく予定です。お気付きの点、紹介したい博物館などお知らせいただければ幸いです。今後の参考にいたします。

◇山口県美祿市歴史民俗資料館は、三疊紀の植物化石の大型標本をはじめ、古生代のサンゴなど化石標本が豊富に陳列しており、「ユニークな地質系博物館」として紹介するに値する展示館ですが、既に昨年の本誌7月号(419号、60~65頁)に掲載したばかりですので、本号では重複を避けました。

◇「地質標本館の年表」に見られるように、地質標本館の前身とも言える木石陳列所が明治9年(1876)に開設してから様々な経緯があって、今日の地質標本館に至ったわけです。この間の記録は、たとえ些細なものであっても残しておかなければ、永久に忘れられてしまいますので、この機会を利用して、できるだけ地質標本館にまつわる話題を載せるように努めました。この特集号が地質標本館の開館20周年、100周年へ向って発展していくための一助となることを願っています。

◇本号の編集にあたっては、ページの制限がかなり厳しく、割愛せざるえない点がありました。例えば、各記事の英文の著者名とタイトルは一部省略し、学会揭示

板も2ページに押さえました。

尾上 記

今月は「地質情報」と「IGC 事務局ニュース」を休載します

6月号「日本国際賞」の記事には、テクトニクスのトが抜けるという誤植が何力所かありました。講演要旨の原文は、正しくテクトニクスとなっております。訂正し、お詫びいたします。

地質ニュースに寄稿される方へ

1. 地球科学各分野の最近の話題・総説・解説など多方面の原稿を募ります。
2. 原稿は図・表・写真を含め、原則として刷上がり15ページ以内とします。これをこえる場合は事務局に相談して下さい。地質ニュース原稿用紙(25×18字)4枚半が1ページに相当します。
3. ワードプロセッサ使用の場合も、A4判用紙に1行25字とし、行数は20行程度として下さい。
4. 句読点・引用符などもすべて1字として下さい。
5. 図・表・写真は本文とは別に1枚1ページとして、それぞれに番号をつけるとともに、希望する掲載サイズを余白に記入して下さい。これらにつける説明文は、本文とは別の原稿用紙に書いて下さい。とくに図と写真は、縮小率を考え鮮明なものを提出して下さい。
6. 原稿の右欄外に図・表・写真の希望する挿入位置を鉛筆で記入して下さい。
7. 原稿は事務局に提出して下さい。編集委員会から受付カードを発行します。掲載は原則として受付順としますが、速報性の高いものは優先的に印刷したいと思います。

<地質ニュース編集委員会>

地質ニュース編集委員会

委員長：小川克郎
副委員長：佐藤興平・鈴木尉元
幹事：黒田和男・尾上 亨
委員：三田直樹・岡村行信・三村弘二・笹田政克・佐藤岱生・小玉喜三郎・武居由之・山口 靖湯浅真人

事務局：総務部業務課広報係
〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所
地質ニュース編集委員会
事務局 Tel. 0298-54-3520
Fax. 0298-54-3533

地質ニュース	第431号 1990年7月号
	定価 ¥700 千 実費
1990年7月1日 発行	
編集	工業技術院地質調査所
発行人	林 久 雄
発行所	株式会社 実業公報社 東京都千代田区九段南4の2の12 〒102
	Tel. (03)265-0951 (代表)
	振替口座 東京1-32466
	麹町局私書箱第21号
総発売元	株式会社 実業公報社

©1990 Geological Survey of Japan
●本誌は東京都中央区八重洲ブックセンター本店とつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。